

## 「家族が語る もうひとつのハンセン病史」

2019年12月14日（土）

（1人目）

エルソン・ディアス・ダ・シウバ（ブラジル 第二世代、回復者団体 MORHAN）



エルソン・ディアス・  
ダ・シウバ氏

皆さま、こんにちは。  
エルソン・ディアスと  
申します。ブラジルの  
ハンセン病問題の当事  
者、回復者支援ネット  
ワーク「MORHAN（モ  
ハン）」のコーディネ  
ーターをしています。

本日はブラジル政府  
の強制隔離政策につい  
てお話しをします。ブ

ラジル政府はその政策とハンセン病を理由に家族  
をバラバラに引き離したことによって二重の罪で  
あると私たちは主張しています。私たちが取り組  
んでいるプロジェクトは「生存している親の孤児  
たち」と呼ばれています。「孤児」と言われた子  
どもの親は、まだ存命だったからです。

まもなくブラジルでは、州レベルではもちろん  
ですが、財務委員会内の協議を経て、家族から引  
き離された子どもたちを経済的に補償するための  
州法が可決されようとしています。私はその補償  
の対象となる、親が活着しているのにも関わらず孤  
児となってしまった子どもたちの歴史についてお  
話しをしたいと思います。

写真①に見られる通り、この子たちが当時のブ  
ラジル政府の強制隔離政策によって親から引き離  
された子どもたちです。



写真① 引き離された子どもたち

ヴァルガス政権時に最も強力であった当時の隔  
離政策によって、ハンセン病として診断、または  
疑われた親は隔離施設に送られ、一方子どもたち  
は孤児院に連れて行かれました。それは1920年代  
に始まり1980年代後半まで施行された政策です。

隔離政策は連邦法610条として1949年1月13日  
に施行されました。それによると、「レプラ感染  
者として診断された親の子供は強制的に直ちにそ  
の親から引き離されなければならない」。

モハンは孤児となった子どもたちの状況をブラ  
ジル全土に渡って調査を行い、また2010年8月19  
日に首都で開催された公聴会を通じて、情報を集  
計し、孤児の行方を追跡しました。このイベント  
は大統領府、人権省、保健省等、また連邦レベル  
の一般市民の参加を得て実施されました。それ以  
来数多くの公聴会が公の施設で行われています。

私たち親から引き離された子どもたちは、2002  
年から戦っています。以前は私たちの問題を取り  
上げてくれた他の社会運動や組織とも活動をしま  
したが、何も進展しませんでした。「生存する親  
の孤児たち」の多くが路上で暮らさざるを得ない  
状況を見過ごし、自分たちの利益のために私たち  
の歴史を利用しました。路上で暮らす「孤児」た  
ちは緊急に住居と健康面で援助が必要です。

したがって私たちはどこの団体にも属さず、個  
人と個人が有機的に繋がり、連邦ならびに州の検  
察当局に、この問題を法的に取り上げるように働  
きかけました。私たちを代弁する機関はブラジル  
ではモハンだけです。

表①は、1960年代にブラジルにあったハンセン  
病感染予防施設のリストです。

子どもを感染予防施設に入れるということも、  
政府によって強制されていたことです。

この感染予防施設は、子どもたちにとって、唯  
一の救いであったともいえるかもしれません。親  
が療養所に収容されると、子どもの面倒を見てく

表① 1960年代ブラジルの感染予防施設

ESTADO	MUNICÍPIO	PREVENTÓRIO
ACRE	Cruzeiro do Sul	Educandário Cruzeiro do Sul
RONDONIA	Porto Velho	Educandário Belisário Pena
ACRE	Rio Branco	Educandário Santa Margarida
ALAGOAS	Maceió	Educandário Eunice Weaver
AMAZONAS	Manaus	Educandário Gustavo Capanema
BAHIA	Salvador	Educandário Eunice Weaver
CEARÁ	Fortaleza	Educandário Eunice Weaver
ESPÍRITO SANTO	Vitória	Educandário Alzira Bley
GOIÁS	Goiânia	Educandário Afrânio de Azevedo
MARANHÃO	São Luiz	Educandário Santo Antônio
MATO GROSSO	Campo Grande	Educandário Getúlio Vargas
MINAS GERAIS	Araguari	i Educandário Eunice Weaver
PARÁ	Bélem	Educandário Eunice Weaver
PARAÍBA	João Pessoa	Educandário Eunice Weaver
PARANÁ	Curitiba	Educandário Curitiba
PERNAMBUCO	Recife	Instituto Guararapes PIAUÍ
PIAUÍ	Parnaíba	Educandário Padre Damião
IO DE JANEIRO	Niterói	Educandário Vista Alegre
GUANABARA	Niterói	Educandário Santa Maria
RIO GRANDE DO NORTE	Natal	Educandário Oswaldo Cruz
RIO GRANDE DO SUL	Porto Alegre	Amparo Santa Cruz
SANTA CATARINA	Florianópolis	Educandário Santa Catarina
SÃO PAULO	Carapicuíba	Educandário Santa Terezinha
	Jacareí	Educandário Jacareí
	São Paulo	Creche Carolino Mota e Silva
SERGIPE	Aracaju	Educandário São José

れる人はいなくなったからです。病気に対する恐怖、そして今よりさらに強かった偏見のために、残された子どもを引き取ろうという親族はいませんでした。両親から感染予防施設に引き離された子どもたちの入所記録が残っています。

先ほども申し上げた連邦法610条により、ブラジルではハンセン病患者は強制隔離されますが、隔離されたのが、ハンセン病療養所およびコロニーでした。この同じ法律により、ハンセン病患者の子どもたちは養子に出されることとなり、数千もの家族がバラバラになりました。この状況は、ハンセン病療養所が一般的な総合病院へと転換した1986年まで続きました。

家族の成り立ちやその状況や権利に対する配慮はありませんでした。ハンセン病の治療法は確立されておらず、まともな治療もされていませんでした。患者は、生まれたばかりの子どもを養育施設に送られるのを黙ってみている他ないという厳しい現実を生き抜かなければならなかったのです。モハンは、このように誰の目にも止まらず、苦しんで生きていた人たちの権利のために生まれました。

患者たちの子どもが「落とし子」といわれるのは、このような背景があったのです。

リタ・デ・カシアさんという、子どもを引き離された58歳の女性の言葉を紹介します。「ハンセン病による親子別離の歴史を明らかにすることによって、二度とブラジルの家族が1つの疾病によって強制的に引き離されないことを願います」。

モハンは1981年の6月6日の設立された非営利組織です。その活動は啓発活動と効果的な公共政策の構築を通じてハンセン病の撲滅を目指します。モハンはハンセン病患者とその家族の人権と尊厳のために戦います。この活動は主にボランティアによるものです。

モハンの使命と目指すものについてお話しします。私たちの使命はハンセン病の正しい知識が普及し、社会の中でハンセン病が一般的な病のひとつであり、完治し治療可能な病気であると社会に理解され、差別と偏見をなくすることです。目指すのは、ハンセン病に関する情報センターとして、ハンセン病回復者をサポートし、治療と人権を尊重するブラジルです。

親から引き離された子どものための、民事訴訟を起こしました。訴訟の狙いはブラジル政府に隔離政策についての責任を認めさせることです。私たちはハンセン病に関する全ての記録の開示、補償金の支払い、保健に関する法の立案、心理学及

以上となります。ご拝聴ありがとうございます。

(翻訳: Carlos Alberto Abelleira da Silva [カルロス・アルベルト・アベレイラ・ダ・シウバ]、吉國 元)



写真② 引き裂かれた家族の再会